

Close Up ひろがった 東日本大震災 に対する 支援の輪

▼被災した港町



▲小林市からの支援物資発送



▲被災地で活動した救援の翼 21



1月27日 県防災ヘリより撮影

新燃岳噴火 Close Up 警戒続く

1月27日、霧島山の新燃岳（1,421m）が爆発的噴火を起こしました。爆発的噴火は昭和34年以来52年ぶり、マグマ噴火になると300年ぶり。多量の火山灰や噴石、空震による被害が出ました。2月14日には噴火に伴い、市内に多量の噴石が降り、車ガラスや太陽熱温水器のパネルなどが割れる被害が続出しました。新燃岳は現在も活発な火山活動を継続。噴火の際の風向きが、火口から市の方向に吹いている時は、降灰や噴石などの飛散物による被害が考えられます。噴火があったことを知った時や降灰が激しい時は、屋内など飛散物を避けられる場所へ移動し、噴石や降灰から身を守りましょう。

▼火山灰の処理に追われる人々



▲火山雷

甚大な被害を受けた東北への支援を 人命救助、物資の支援、 医療支援など

3月11日、東北地方太平洋沖を震源とするM9.0という日本史上最大級の地震が発生。これに伴う大津波が沿岸部を襲い、町は瓦礫と化しました。この未曾有の事態に、市では多くの方が支援金や物資を提供。また、被災地では、救助や医療、ボランティアなどの支援活動が展開され

ました。また、被災地で焼肉の提供などの活動を行った市民活動団体「チーム小林47」は8月に被災地の子どもたちを小林市に招待。市内で様々な体験してもらいながら、交流を深めていきました。復興にはこれからも支援が必要です。ご協力をお願いします。

高まる 防災意識

Close Up

小 林市コスモホール周辺で、11月6日、防災訓練が行われました。消防団員や消防署員、えびの自衛隊員、地元住民など約400人が参加。えびの高原付近の噴火を想定し、避難誘導や災害救助などを確認しました。訓練は避難指示を合図に開始。地域住民の避難誘導や、消防団と宮崎県防災救急ヘリコプター「あおぞら」による消火活動、えびの自衛隊の隊員および消防署員による救出訓練が行われました。須木・野尻町区でも中継放水訓練が行われました。



▲救助活動を行った西諸広域緊急消防援助隊

▼日本医師会災害医療チーム（JMAIT）として医療
救助活動を行った市立病院のメンバー



▲▼救助訓練の様子（11月6日）



大雨 Close Up による被害多数



6月は大雨による被害が市内で多発。床下浸水や崩壊した土砂で家屋が押しつぶされるなどの被害がありました。